

平成30年度 施政方針

平成30年度予算及び関連諸議案の審議をお願いするに際しまして、ここに市政運営に臨む私の所信を明らかにし、議員及び市民の皆さまのご理解とご賛同をいただきたく存じます。

今年3月に行われました選挙により、市民の皆さまからの信任をいただき、私自身としては3期目となる市政の舵取りを務めさせていただくこととなりました。引き続き洲本市のまちづくりを託され、その崇高な使命と責任の重さをあらためて痛感し、身の引き締まる思いです。

市民の皆さまに洲本市で暮らして良かった、いつまでも洲本市に住み続けたいと思っていただけるように、魅力にあふれ、やさしさと美しさを大切にしたまちづくりを進めるべく、私を含め、職員一同がこころをひとつにして、強い責任感と高い志を持って、職務に臨む決意を新たにしたところでございます。

さて、我が国におきましては、安倍内閣が進める「地方創生」の取組により、人口減少の緩和ならびに東京一極集中の是正に向けた取組が進められていることに加え、働き方改革、人づくり革命、生産性革命の実現に向け、人がこころ豊かに働き、暮らし、そして充実した人生を送れるワーク・ライフ・

バランスの確立や、女性や若者、そして高齢者がいきいきと活躍できる社会づくりに向けた取組が進められております。

そのような中、洲本市におきましても、平成27年10月に「洲本市総合戦略」を策定し、4つの基本戦略に基づき、行政、市民、地域団体、企業、学生などが協働し、洲本の魅力づくりの促進と交流人口の拡大など、人口減少を食い止めるためのさまざまな取組を進めてまいりました。

また、市町合併後に策定した「洲本市総合基本計画」が10年を経過したため、平成30年度からの10年間について、新しい市政運営の目標とその実現方法を明確にし、計画的なまちづくりを進めるための指針として「新洲本市総合計画」を策定いたしました。

新洲本市総合計画では、まちづくりのビジョンにあたる「基本構想」の中で、将来都市像を「豊かな自然とやさしさあふれる暮らし共創都市・洲本」と決めました。この将来像には、市民の皆さまの厚い人情や穏やかな人柄に代表される「やさしさ」、淡路島の豊かな自然環境に代表される「美しさ」、さらに島の中心地として栄え、守り伝えられてきた「歴史・文化」、そして島内、島外との「新たなつながり」が幾重いくえにもかさなり合うことで、暮らす人も訪れる人もこころ豊かに、そして互いに思いやり、手を取り、磨き合いながら、新たな暮らしの魅力や価値を生み出す「光かがやくまち」をめざしたいという強い思いを込めております。

その具体的な取組としまして、私はこれまでの2期8年間、

市政運営を任せていただいた中で、さまざまな「つながり」を育んでまいりました。

さまざまな「つながり」が深まることにより、郷里^{きょうり}を離れてもふるさとをいつまでも思い、応援してくださる方、例えば、本市出身で世界的にも著名なゲームデザイナーでいらっしゃる堀井雄二氏のような「洲本のファン」を増やす取組を進めてまいります。

現在、神戸市、芦屋市、淡路市、洲本市の4市が都市の文化と島の自然の豊かさを両立した新たな暮らしのスタイルを提案する「島&都市デュアル」の取組を進めております。

とりわけ、2020年には東京オリンピックという一大イベントがございますが、これを大きなチャンスとして捉え、首都圏など、都市部におけるさらなるシティプロモーションを展開してまいります。

また、暮らしやすいまちづくりを進めるため、その基盤となるインフラ整備につきましても、しっかりと進めてまいります。

まずは、新庁舎におきましては、昨年2月から各種の行政サービスを開始しておりますが、今年3月1日に外構と立体駐車場が完成し、バリアフリーな環境を整えたことで、誰もが訪れやすい市役所に生まれ変わりました。

さらに、今年度は洲本商工会議所会館の建替え工事が進められ、同会館内には新たに「洲本市経済交流センター」が設置され、起業支援や中小企業事業者向けのマーケティング、

ならびにインバウンド（訪日外国人）に関する研修などが実施されます。このように市役所の周辺施設などが整備されたことにより、中心市街地の利便性・都市機能がさらに向上するものと考えております。そして、多種多彩な人が集い、交流する中で、新しい価値を創造する拠点として「新たなまちの骨格」を形成していくものと期待しております。

そのような中、私はこれまで培^{つちか}ってきたこの「つながり」という財産を足がかりにしながらか、これからは、「暮らす人が誇りを、訪れる人が愛着^{いだ}を抱く、魅力かがやく共創のまちをめざすこと」を目標に、まちづくりに取り組んでまいります。

そのための1つ目の柱は、「安全、安心な暮らしの実現」です。

まずは、「防災・防犯環境の充実」についてです。

災害はいつ起こるかわかりません。南海トラフ巨大地震が30年以内に発生する確率が70%から80%に引き上げられました。そのため、事前に備え、意識することが一層重要になってまいります。

また、個人による備えとしての「自助」だけでなく、地域やコミュニティとの助け合いや連携による「共助」に加えて、行政が対策を講じる「公助」が三位^{さんみ}一体となって、はじめて効果を発揮いたします。

まず、「自助」では、消防団員の火災発生時に対する消火活動の知識の習得、技術の向上に向け、消防操法大会が6月3日に開催されました。

さらに、大規模な災害発生時における電気器具の転倒や停電後の通電時に火災が多いことから、一般家庭での対策として、感震ブレーカーの設置及び普及のため、引き続き補助金を交付してまいります。

また、ハザード情報を事前に知り、早期避難などに備える対策として整備した電子ハザードマップについては、県の土砂災害特別警戒区域指定を踏まえたデータに順次更新してまいります。

次に、「共助」では、防災学習会や防災訓練など、地域における自主防災への取組を支援するとともに、防災出前講座などの啓発活動を地域とともに実施し、市民防災力の強化を図ってまいります。

さらに、災害時要援護者への支援として、高齢者の実態把握にあわせて支援を要する方々の実態調査を行い、避難行動要支援者名簿に登載します。そして、その名簿をもとに、災害や緊急時においても的確な支援を地域と連携して行えるよう、住所・氏名・緊急時の連絡先などを記載した「市民みまもりカード」の普及を促進してまいります。

一方、「公助」による取組のうち、ハード整備事業では、炬口地区における総合的な津波、高潮、浸水対策を県と連携して進めてまいります。津波、高潮対策では、県がだぶつがわ陀仏川河

口部において樋門^{ひもん}の整備を進める一方、市では炬口漁港での浮体式陸閘^{りっこう}ゲートを採用した防潮堤工事を推進するとともに、浸水対策としましては、炬口ポンプ場の早期建設に努めてまいります。

一方、ソフト事業では災害発生後において、一日も早く日常生活の安定を取り戻すため、市役所機能を早急に復旧し、災害対応や必要となる通常業務をスムーズに立ち上げ、遂行できる体制が確保できるように「業務継続計画」の策定を進めてまいります。

防犯面につきましては、町内会が管理する既存の防犯灯約3,600灯のLED化を進めるとともに、地域における防犯カメラの設置につきましても支援してまいります。

あわせて児童などが巻き込まれる犯罪を防ぐため、引き続き警察署や防犯協会などの関係機関と連携し、安全・安心なまちづくりを進めてまいります。

次に、「住まい・生活環境の充実」についてです。

人口減少や少子高齢化の進展に伴い、老朽・危険空き家は増加傾向にあります。このような空き家に対し、効果的かつ計画的な対策を推進するため「空家等対策計画」を策定し、状態の良い空き家については、移住希望者などに対する住まいの情報として「洲本市空き家バンク」への登録を促してまいります。

あわせて、空き家改修の支援と組み合わせることで、効果

的な空き家の解消と活用を図ってまいります。

さらに、災害に強く安心して暮らせる住まいづくりに資するため、簡易耐震診断や耐震改修工事、建替えに加えて、睡眠中に発生した地震から身を守る防災ベッドの設置にかかる支援も含めた取組を実施し、住宅の耐震化を推進してまいります。

また、市営住宅については、老朽化が進む船場団地^{せんば}の用途廃止に向けて入居者の移転を進めるとともに、既存の市営住宅については、需要の動向も踏まえながら、安全性の確保や長寿命化を図る改善工事を計画的に進めてまいります。

生活環境につきましては、住民主体によるまちづくり活動の推進と定着をめざして、まちづくり講座を開催します。

また、洲本らしい愛着ある住まいづくりを進めるとともに、淡路瓦の活用や生活にうるおいをもたらす生垣の設置など、景観の魅力を高めるため、市民の皆さまが行う風情^{ふぜい}ある住まいづくりを支援してまいります。

そのほか、資源循環型社会をめざして、ごみの有料化や分別収集などの取組にあわせて、効率的かつ効果的なリサイクルの導入を検討し、さらなるごみの減量化を推進してまいります。

さらに、公共用水域の水質保全と生活環境の向上を図るため、し尿汲み取り及び単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への更新を支援し、公共下水道の供用区域においては、公共下水道への接続を支援するとともに、その周知・啓発に努めて

まいります。

消費者保護対策につきましては、悪徳商法、振り込め詐欺などから市民の皆さまを守るため、洲本市消費生活センターを中心として、消費生活相談の実施や出前講座の開催など、消費者教育に力を注ぐことで、消費者が主役となる社会の実現をめざしてまいります。

続いて、「子育て環境の充実」についてです。

核家族化や女性の社会進出が進む中で、子育てに不安や悩みを持つ妊産婦に対して、育児と仕事を両立し、健やかに妊娠・出産・子育て期を過ごすことができるように、母子健康包括支援センターの母子保健コーディネーターを中心に、きめ細やかな支援を行ってまいります。

加えて、内容を充実した子育てハンドブックや、洲本市の子育て応援キャラクター「なのは」が登場する、SNSサイト「なのはくらぶ」を通して、子育てに役立つ情報発信を進めてまいります。

また、子育てしやすい環境を創るため、妊婦または乳児が医療機関を受診する際のタクシー利用料金の助成を行ってまいります。

さらに、子育て世代の経済的負担を軽減するとともに、子どもたちが安心して必要な医療を受けることができるように、既に実施しております、中学生までの通院ならびに入院医療費の無料化に加えて、高校生までの入院医療費を無料と

することで、安心して医療を受けられる環境の拡充を進めてまいります。

そのほか、建設中の市立認定こども園につきましては、来春の開園に向けた整備を進め、多様化する保育ニーズに適切に対応しうるように幼保一体となった新しい保育サービスを提供するほか、子育て支援の拠点となるよう力を尽くしてまいります。

続いて「医療・福祉環境の充実」についてです。

市民の皆さまが住み慣れた地域で安心して生活を送るためには、保健・医療・福祉が連携し、充実していくことが重要です。健康な身体は自身で守るという、高い健康意識を持ち、市民の皆さまの健康寿命を延ばすため、健診の受診機会を拡充するとともに受診内容の充実を図ります。

また、高齢者福祉につきましては、地域の特性に応じて包括的な支援やサービスを提供する地域包括ケアシステムの構築を進め、今年度は新たに医師、歯科医師を交えた「自立支援型地域ケア個別会議」へ拡充し、医療と介護の連携を図ります。

高齢化の進展に伴う認知症対策は、早期発見・早期支援が何よりも有効です。予防健診をはじめ、認知症サポート医や認知症地域支援推進員などで構成する、認知症初期集中支援チームによる訪問や医療機関への受診勧奨などを推進し、認知症の疑いのある方とその家族の支援を実施してまいります。

す。

また、「いきいき百歳体操」のほか、^{こうくう}口腔機能の向上が期待できる「かみかみ百歳体操」や認知機能を高める「しゃきしゃき百歳体操」などの介護予防への取組についてもより一層充実し、高齢者の健康意識の向上を図るとともに、元気な高齢者が「支援する側」として活躍していただける環境づくりを進めてまいります。

さらに、公共交通機関を利用することが困難な障害者などの移動環境を整えるために、福祉有償運送事業者の車両購入や人材育成にかかる経費の支援を実施してまいります。

障害者福祉につきましては、「障害者のコミュニケーション手段などの選択の機会の確保及び拡大に関する条例」の目的を達成するため、コミュニケーション手段の普及・啓発に努めるとともに、障害児の健やかな育成を願い、地域の保健・医療・障害福祉・保育・教育などの関係機関と連携し、障害児のライフステージに応じた切れ目のない支援体制の構築を進めてまいります。

地域医療の拠点施設である直営診療所は、社会環境の変化や利用者の減少などにより、非常に厳しい経営状況となっています。この状況に対し、^{しんし}真摯に向き合うとともに、引き続き、域内外の医療環境の実態などを踏まえ、地域医療体制のあり方について、再編も含め、真剣に見直しを進めてまいります。

また、国民健康保険事業につきましては、本年4月より都

道府県単位での事業運営となりましたが、市ではこれまでと同様に資格管理や保険給付を行うほか、保険税の賦課・徴収、保健事業などを担ってまいります。市民サービスの向上のため、適正な運用に努めるとともに、特定健診や特定保健指導などを推進し、健康と長寿を確保しながら、医療費の伸びの抑制をめざします。

2つ目の柱は、「活力とにぎわいのあるまちづくり」です。

まずは、「働く場の創出と地域産業の振興」についてです。

地域の活性化のためには若者の地域定着を図ることが重要です。このため、県や商工関係団体、そして島内3市により構成される淡路地域人材確保協議会において、合同就職説明会の開催や島内企業のPRに引き続き取り組んでまいります。

また、女性や若者の起業にかかる準備経費の支援や、ビジネススキルの向上を目的とした研修を行い、起業マインドを高め、起業しやすい環境づくりを進めてまいります。

一方、若者の労働力不足に悩む市内企業の労働環境を充実させるため、未来の担い手となる若者就業者を確保する取組を進めてまいります。

さらに、企業誘致による働く場の創出にも力を入れ、広石北地区における企業用地の造成に加え、既設企業団地への企業誘致についても引き続き取り組んでまいります。

また、高齢化と後継者不足に悩む農業の担い手確保につき

ましては、就農を希望する移住者のニーズに対応するため、農業研修生に対して「たかた屋」など、無料で宿泊できる滞在施設を提供するとともに、認定農業者が研修生を受け入れ、技術指導などを行う「親方制度」による支援を行ってまいります。

さらに、利活用されていない農業用施設や機械を仲介する支援を行うことで、ひとりでも多くの新規就農者の定着をめざした支援を充実してまいります。

また、農業の持続的な発展のためには、農業基盤の整備が不可欠です。このため、関係機関と連携を図りながら、ほ場整備を推進するとともに、市内に多数存在する老朽ため池のうち、危険度が高いものについては、災害の未然防止策を協議し、改修工事を進めてまいります。さらに、多面的機能支払交付金や中山間地域直接支払交付金などを活用した農地の保全にも取り組んでまいります。

加えて、農作物に被害を及ぼす野生鳥獣への対策につきましては、捕獲と防護の両面で取組を進めるとともに、人材の育成と体制の整備を支援します。また、捕獲した鳥獣をジビエとして活用することについても、引き続き検討してまいります。

神戸ビーフの海外需要の増加などにより、但馬牛の子牛価格が上昇し、和牛繁殖農家の経営環境は確実に好転しつつあります。このような中、経営の拡大を図る畜産農家に対しては、国の畜産クラスター事業の活用による牛舎整備を支援す

るとともに、小規模経営の農家が増頭に取り組む場合にもきめ細やかな支援を行ってまいります。

また、繁殖和牛の耕作放棄地などでの放牧についても、取組の拡大を検討してまいります。

一方、水産業につきましては、資源の管理や種苗^{しゅびょう}の放流など「つくり育てる漁業」の推進を図り、全国的にも有名な「由良の魚」のブランド力を活かした6次産業化に加えて、特産物である赤ウニの養殖の事業化に向けた支援も行っています。

そのほか、「市の魚」である「鱒」^{さむら}につきましても、関係機関などと連携し、新商品の開発などを進めています。

続いて、「社会資本の整備」についてです。

開通を心待ちにしておりました「淡路島中央スマートインターチェンジ」が今年2月に供用を開始いたしました。

続いて、「上加茂バイパス」も供用が開始されたことで、市街地とのアクセスがより安全で便利になり、スマートインターチェンジ利用者の利便性がさらに向上したところです。なお、スマートインターチェンジ周辺の利活用については、今後検討してまいります。

道路整備につきましては、都市計画道路「下内膳線」の整備ならびに国が進める国道28号洲本バイパス未整備区間の円滑な事業推進を連携のもと実施することで、市街地への交通渋滞の解消は勿論^{もちろん}のこと、「加茂中央線」、「物部曲田塩

屋線」を軸とした交通網の利便性、安全性が向上するよう、整備を進めてまいります。

また、本市の外環状線に位置付けております「宇原千草線」につきましては、洲本温泉などの観光拠点へのアクセス改善を図るため、早期の全線開通に向け、事業の推進を図ってまいります。

一方、高度成長期に多数整備され、老朽化が懸念される橋梁きょうりょうなどの既存インフラについては、計画的な点検及び長寿命化に向けた修繕、改築を進めてまいります。

ところで、昨今の自転車ブームにより、淡路島を訪れるサイクリストが増加している状況が見受けられるところです。また、通勤・通学、買い物などの日常生活にも多くの自転車が使用されています。これらのことから、安全で快適な自転車空間を整備する取組につきまして、整備計画の策定に向けた準備を進めてまいります。

さらに、国の地方創生推進交付金を活用して、大阪府泉南郡岬町と共同で「洲本・深日ふけ航路」を運航する予定ですが、その際、大阪湾をまたぐ広域的なサイクル・ツーリズムを展開し、サイクリストが集いやすい環境整備を進めるとともに、洲本港周辺の整備ならびに活性化を図ってまいります。

また、路線バスの衰退や鉄道がない淡路島特有の交通課題を解消し、市民・島民の生活の足と観光客の移動手段を確保するため、国、県、島内3市、交通事業者などによって構成された淡路島地域公共交通活性化協議会が「淡路島地域公共

交通網形成計画」を策定しました。今後はこの計画を踏まえながら、広域的な視点のもと、淡路島のあるべき公共交通の実現をめざしてまいります。

続いて、「魅力ある新たな情報発信の充実」についてです。

情報技術の革新は日進月歩であり、コミュニケーションツールも大きく変化しており、スマートフォンやタブレットの登場により、情報入手・発信する手段も大きく変化してまいりました。

そのような中、本市のホームページにつきましても、こうしたモバイル機器にも対応し、利用者に見やすく、かつわかりやすいものにするとともに、多言語での表示を採用することで、インバウンドなどにも配慮した新しいホームページの構築を進めてまいります。

また、地域の魅力を再発見し発信することで、本市への交流・移住マインドを高める「地域のいいところ発信事業」に加えて、洲本市全域を対象としたフォトコンテストを実施し、美しい写真による魅力発信も引き続き実施してまいります。

そのほか、本市の行政サービスなどの情報をしっかりと市民の皆さまなどへお届けし、本市の取組を広く知っていただくため、各新聞事業者やメディア関係者などとのコミュニケーションの場づくりも積極的に進めてまいります。

さらに、外部へのシティプロモーションを一層加速させるため、首都圏に本市の特産品のほか、移住相談や交流コーナ

一、イベントスペースなどの機能を持たせたアンテナショップを開設するとともに、「ふるさと洲本もっともっとも応援寄附金」における「洲本のファン」を増やすため、引き続き魅力あふれる商品の開発に努め、「関係人口」をさらに増やす取組の拡大を図ってまいります。

そのほか、地域間交流を深め、洲本市をもっと知っていただくための交流イベントなども引き続き開催してまいります。

3つ目の柱は、「新たな魅力の創造」です。

まずは、「既存ストックを生かした新たな資源の創出」についてです。

かつて城下町として栄えた^{たたず}佇まいが今もなお市内のあちこちに残っており、それらは、本市独自の歴史・文化として、貴重な地域資源となっています。

昨年、「続日本100名城」に選定された洲本城については、石垣に^{はんも}繁茂した樹木の伐採に本格的に着手し、より一層、^{やまじろ}山城の存在感を高めるとともに、さらなる魅力を引き出してまいります。

また、城下町の街並みや歴史文化遺産を活用したまち歩きや^{どうたく}銅鐸・銅鏡づくり体験などを通して、郷土の歴史や文化に対する愛着と理解を深めていただくため、旧益習館庭園については、来園者への利便性の向上も含めた取組や整備を進めるとともに、国の文化財指定をめざしてまいります。

さらに、再生可能エネルギーにつきましては、あわじ環境未来島構想の一環として、域学連携事業のパートナーである龍谷大学との取組の中で設立した発電事業会社が、鮎原塔下地区と中川原三木田地区のため池に太陽光発電所を設置した「地域貢献型ため池ソーラー発電事業」について、「第5回プラチナ大賞優秀賞」を受賞するとともに「新エネ大賞審査委員長特別賞」を受賞しました。これらの受賞を追い風に、五色沖での洋上風力発電の事業化の検討を進めてまいります。また、現在、ウェルネスパーク五色で稼動している大型バイオマスボイラーの燃料である竹チップについては、原料として利用する体制の強化を図るため、地域と連携して放置竹林の適正な管理についての検討を進めてまいります。

続いて、「次世代を担う豊かな人づくり」についてです。

まちの活力の維持と発展の^{みなもと}源は人です。暮らす人と訪れる人、そして何よりも未来を担う子どもたちがいきいきと暮らし、各人が生きがいを見つけるとともに、自己研鑽^{けんさん}や社会貢献活動などを通して郷土愛^{じょうせい}を醸成し、住み続けたいと思っただけることが大切です。

淡路島は、U・J・Iターンを希望する移住者の移住先として高い人気を誇っています。移住者支援につきましては、きめ細やかな窓口対応に努めるとともに、多岐^{たき}にわたるニーズに応えるため、庁内横断型の対応を行うことは勿論、県や島内2市のほか、宅地建物取引業協会などとも連携し、移住

支援の充実を図ってまいります。

また、「お帰りなさいプロジェクト」によるきめ細やかな生活支援に加えて、さかえ団地などの市分譲地の紹介や上堺定住促進住宅の適正な管理にも努めてまいります。

自身も移住者である地域おこし協力隊員は、移住者の考えやニーズを知る貴重な存在であり、地域課題の解決にあわせて、地域と移住者をつなぐ「架け橋」として、魅力ある活動を行うとともに、積極的に情報発信を行ってまいります。

さらに、時代の変化に順応し、互いを尊重し合える、こころ豊かで成熟した人づくりのため、人権の尊重や共生社会の実現に向け策定しました「第3次男女共同参画プラン」により、参画と協働を推進してまいります。

また、環境にやさしい人づくりとして「エコひろば洲本」を拠点に環境学習を推進することにより、環境に対する関心を深めつつ、自発的な環境保全活動の実施と将来のリーダー的人材の育成に努めるとともに「みどりのカーテンコンテスト」の開催に加え、住宅用太陽光発電システム及び蓄電池の設置に対する支援も進めてまいります。

さらに、洲本市で暮らす小学生が郷土愛を育むことができるように、子どもたちにも読みやすく、わかりやすい洲本市のPR図書を作成し、市内及び全国の小学校などに配布いたします。

また、みしまとくしち三島徳七博士の孫であるみしまよしなお三島良直氏が今年3月まで学長を務めておられた東京工業大学に引き続きご協力をい

ただき、子どもたちが科学に親しむとともに、郷土の偉人の功績を知ることを通して学習意欲を高め、未来の社会に貢献できる人材の育成を図ってまいります。

このほか、学校教育の充実、生涯学習の振興、青少年の健全育成、地域文化の振興、そして、生涯スポーツの振興に関する具体的な取組・事業につきましては、後ほど、教育長が「教育行政方針」の中で披露いたします。

4つ目の柱は、「淡路島をグローバルに捉えた施策の推進」です。

北前船の寄港地などで構成する「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」につきましては、去る5月24日に文化庁より本市を含めた県内5市町が日本遺産の追加認定を受けました。

このほか、島内3市が共同で申請し、既に日本遺産の認定を受けている「国生みの島・淡路～古代国家を支えた海人の営み～」（通称：淡路島日本遺産）に加えて、全国に3箇所ある「御食国」と呼ばれた「淡路」・「若狭」・「志摩」と、和食文化の中心地である京都府が連携し、「御食国ブランド」として海外に向け、情報発信を行うなど、広域的な取組を進めてまいります。

また、現在、洲本市・淡路市で取り組んでおります「淡路島定住自立圏」につきましては、今年度は新たに南あわじ市とも連携を図り、島内3市が協力して「淡路島定住自立圏」の

形成に向けた準備を進めるとともに、淡路島全体に関する課題の解決に向け、広域的な視点をもって取り組んでまいります。

さらに、国際交流の取組では、今年度、アメリカ合衆国オハイオ州ヴァンワート市へ訪問団を送るとともに、同国ハワイ州ハワイ郡から訪問団の受け入れを行い、文化、教育、観光など、幅広い分野で相互理解を深めてまいります。

最後に、「行財政改革の取組」についてです。

市役所新庁舎では、多くの部署が集約されたことで、市民の皆さまの利便性向上を図ってまいりましたが、さらなる市民サービスの向上をめざし、事務の効率化を進めてまいります。

また、多様化する市民ニーズに迅速かつ的確に対応するため、効率的な行政組織を構築・維持するとともに、職員個々の能力・実績を反映した適正な人事評価制度に基づく人事管理体制を整え、加えて、職員研修の充実を図ることで、職員の資質向上や能力開発に努めてまいります。

あわせて、法令を遵守するとともに適切な対応のもと、適正に税金の滞納処理を行い、貴重な自主財源である税収の確保に向けた取組に努めてまいります。

市民サービスの向上に関しては、コンビニエンスストア内に設置された多機能端末機による諸証明書の交付に加え、これに付随して、マイナンバー（社会保障・税番号）に関連す

る啓発・取組を順次進めてまいります。

一方で、10年間を計画期間として平成20年度に策定した行財政運営の指針である「財政運営方針」の更新時期が到来しております。

そこで、新公会計制度に初めて対応した、平成29年度決算に基づく財務諸表や「公共施設等総合管理計画」を具体化する個別施設計画を踏まえ、財政運営方針の更新について検討を進めてまいります。

さて、ここまでたくさんの施策につきまして、説明を申し上げてまいりました。

申し上げるまでもなく、人はひとりでは生きてはいけません。多くの人とつながりながら、学び、気づき、助け合い、成長していくものです。

地域もまた人と同じです。地域のにぎわいづくりや人口減少への抜本的な手立ては決して容易ではなく、行政の力だけで改善できるものではありません。そのため、市民の皆さまをはじめ、つながりのできた多くの方々と手をたずさえながら、これまで培ってまいりました「つながり」という糸を幾重にも紡ぐ^{つむ}ことで多様性に富み、変化に順応できる「彩り^{いろど}豊かなまち」をめざすことが、住みよいまちづくりへの糸口になるものと信じております。

市民の皆さま。ぜひ、手をとり合って、「共創のまちづく

り」を実現させてまいりましょう。

先の２月定例議会で成立した平成３０年度当初予算（骨格予算）に、これまで申し上げました方針に基づき編成いたしました平成３０年度補正予算（肉付け予算）を加えました予算額は、

一般会計	２１９億７，５００万円
特別会計	１２５億７，１３５万２千円
企業会計	３４億６，８８４万８千円
合計	３８０億１，５２０万円

となっております。

以上、平成３０年度の予算の提案にあたり、私の市政に対する基本的な考え方と主要な施策をお示ししました。

議員各位におかれましては、格別のご理解とご協力をお願い申し上げます。